７月セミナーを７月２０日(土)　１３：３０～１５：３０に開催しました。

会　場　　愛知文教大学　２０１教室

テーマ　　「子どもに委ねる授業」

授業者　　小牧市立味岡中学校　　塚田　有貴先生

コメンテーター　学び合う学び研究所フェロー　　林　　文通先生

本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、林先生のコメントでの「一人で考える時間」が必ず作れることではない、「個々のわからなさを乗り越える時間」が必要だということをすごく印象に残りました。その視点から、更なる個別最適な学びのやり方を考えさせました。 個別最適な学びをメタ認知の視点から考えるという話は初めて聞きましたが、とても有意義だと思います。個別最適な学びということは、独自学習ということではないという話は昔から聞いていましたが、今ようやく理解しました。確かに、一人で考えることを嫌がるやできない子どももいますが、彼らにとっては、一人で考えるよりも、自分自身のわからなさを学び合いで乗り越えるのがもっと意義があります。その意味で、個別最適な学びは協働学習とは対立関係のではないという話の意味も分かるようになりました。 また、逐語記録の中での生徒たちの発言もとても特徴があって、興味深かったです。私自身の研究は、社会科で子どもの思考におけるアブダクションに焦点を当てていますが、今回の授業では「そうしたら」、「そうだったら」などの言葉がたくさん出てきます。理科の授業と社会科の授業での「そうすると」とはどのような違いがあるか、もっと分析できれば、面白いと思います。
本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、子供に委ねる授業実践です。 「子供に授業を委ねる」と簡単にいうが、とても勇気がいることであり、子供を信頼していないとできないことだと思う。それを実践されているというこの授業は、とても素晴らしいと思うし、子どもたちにとっても意義のあるものだと感じる。 子供たちが、どれだけの学び方を身につけているのかが見える化され、子ども自身は、次の現状の立ち位置を知り、新たな課題が持て、教師は次の授業づくりの目標が見えてくるのではないかと思う。 子供たちが、意欲的に授業へ取り組もうとする課題提示にも工夫が感じられ、素晴らしいと思う。 また、子供たちの授業内の関わり方も良く、今までの学級経営の積み上げが感じられる。とても意味のある授業実践を知ることができ感謝しています。
本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、子どもに委ねる勇気です。 自分の学校から撮った写真を提示して、子どもの課題への関心をぐっと引きつけていてすごいなと思いました。 何時に撮ったのかという言葉では簡単な発問ですが、月の公転と地球の自転を俯瞰から考えるとても難しい内容でしたが、教科書、ネット、教具などいろいろなものを使って、導き出そうとしている姿がとてもすてきだと思いました。 子ども同士の対等なつながりを基盤に、課題を設定し、子どもに委ねる授業を目指したいなと思いました。

とりあえず、2学期初めの単元を頑張りたいと思います。
本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、「探究」です。 ありがとうございました。 「子どもに委ねる」学びをされたことが、とってもよくわかる授業でした。委ねるといっても、放りっぱなしではありません。ここまでくるのに、子どもたちの学び力を育て、そのうえで子どもを信じて、委ねていらっしゃいました。それこそが、「個別最適な学び」だと思いました。 「個別最適な学び」は、「全体課題」があり、それをもとに「個人課題」をもち、「探究」して「まとめ」ていくのだと私は考えています。そこに必要なのは、①自分の状態を知り、自分の問いを持てること　②必要な情報を集めたり、選択したりすること　③苦しい子が自分から聞き、自分なりのやり方で学んでいけること　④多くの仲間と共有し多面的多角的に考え、ヒントを得たり新たな考えを持てたりしていけること　だという気がします。だからこそ、協働の学びが必須になるのではないでしょうか。(佐藤学さんからは、思考は一人でできるけど探究は一人ではできないと教えていただきました。) 個別最適な学びも協働的な学びも、忘れてならないのが「だれ一人とり残さない」ことだと願います。参加者との学びの中で、本日の授業はメタ認知による個々の課題作りだと認識しました。D君やH君も、次の時間に自分なりの問いを作れて自分の方法で探究できていると素敵ですね。また、グループを超え、より多くの考え方を共有するには、やはりICTの力を借りるのがよいのかなとも、見ていて学びました。ありがとうございました。
本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、「free」「flat」「flow」です。 林先生、塚田先生ありがとうございました。おかげさまでたくさん学びました。味中生と塚田先生の学び合う学びのこの事実を目の当たりにし「free」「flat」「flow」が浮かんできました。「ここにいたい」「この中で学ぶのがたのしい」と身体が喜んでいる味中生と塚田先生。映像から伝わってくるすてきな状況、表現やつながりに、何だかうれしくなりました。本気で日々実践している塚田先生の語りと理論的な価値づけをやさしく伝えてくださる林先生の語りを聴いて、ちょっとわかった気がしています。でも、生わかりの自分を戒め、自分の手持ちのできたてほやほやの言葉で語れるように、ゆっくり時間をかけ、何度も反復を持続していきたいと思います。
本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、自分自身の中で目的やねらいをもって挑戦することです。 理科の授業は、習う現象をどう日常生活と結びつけていくか、身近なものに感じさせるかが1つポイントなのではないかと思っています。塚田先生の授業を見せていただいて、児童に委ねることで、課題を解決するために、自身の経験を用いて、児童自ら日常生活と結びつけていく姿が印象的でした。そして、結果は1つだけど、その結果の導き方は1つでは無いということが、面白いところだなと感じました。このような授業ができるのは、教材研究はもちろんのこと、日々の学級経営や授業経営があったからだと思うので、小学校ではありますが、日々学級経営を頑張っていかなければと思いました。 素敵な授業を見せて頂き、ありがとうございました。

本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、学び合いを深化させる授業の一形態とその展開例です。 丸一時間の授業を（ビデオではあったが）参観したうえで討論できたことが良かった。 ただ、視聴後の発表を聞いていると、授業展開での生徒の様子と同じように、それぞれの感想に留まっており、焦点を絞る時間が取れなかったことに、消化不良であり、残念でもあった。 発表者が、「授業のねらい、授業の（前後を含めての）流れ、生徒の特長等」をきちんと説明して、参加者がそれを共有したうえで視聴して討論したならば、たとえ違う教科の先生にとっても効果的なリフレクションに繋がったのではないでしょうか。
本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、学び合う学びの魅力について語れることです。 塚田先生の生徒に委ねる授業を見させていただきました。先生の中で様々な葛藤を経て、思いを持って実践されているのがわかりました。学び合う学びの魅力についても私も同じ思いです。一度はまったらやめられないと佐藤学先生は言われてますが、やめられない理由が魅力なんでしょうね。林先生のお話を聞いて、協働的な学びと個別最適な学びは、まさに塚田先生の委ねる授業の中にあるなと実感しました。また、委ねる授業に挑戦しないかぎり課題が見えてこないという神戸先生のお話から挑戦し続けようと勇気づけられました。有難うございました。
本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、メタ認知です。 子どもに委ねることは、勇気がいりますが、委ねたことによって、見えてくるものがあることを、再認識しました。子どもに委ねるためには、それに値する課題が必要で、そのためには、日頃の子どもの見取りと、教師自身が探究的に教材研究することが必要だとかんじました。 振り返りの提出が遅くなってごめんなさい
本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、生徒に委ねることです。 先生の説明がほとんどなく、正に生徒に委ねた授業で、生徒は生徒で考え続ける楽しさを日頃より味わっていると感じました。たっぷりと時間を与え考えさせるだけに、身近でおもしろい噛みごたえのある課題でもありました。 生徒に委ねることは、学び合う学びの重要なポイントですが、委ねてばかりでは時間がかかり、どこに行ってしまうかも分かりません。そこで、今も昔も教師がいつ出るか、そして何を伝えるか、足場かけが重要となります。この授業で言えば、方角が出た頃でしょうか。混沌としたところで、もう少し方向性を示されてもよかったのかも知れません。 話題でも出たように満月が地平線に近いのは、夕方か朝のどちらかであるはずなのに、そういった会話が出てこないのは、やはり実体験やこれまでの観察が不十分ということになります。五感で感じることなく、机上やタブレット上の理解では理科ではなくなってしまうのではと少し心配になりました。答えの写真を見せたとき、生徒からの驚きや感嘆の声が特に上がらなかったのは、ちょっと意外でした。